

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 27 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520472

研究課題名(和文) 日露語における「自然な言い回し」について：アスペクト・ヴォイスの認知類型論的研究

研究課題名(英文) On "natural wording" in Japanese and Russian: An aspect-voice cognitive typological study

研究代表者

副島 健作 (SOEJIMA, Kensaku)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：60347135

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、まず、日露語のパラレルコーパスを作成した。パラレルコーパスとは、複数言語間で意味内容がほぼ等しいと考えられる文について対応関係が付いている対訳コーパスである。日本語からロシア語に翻訳された短編小説7作品、ロシア語から日本語に翻訳された短編小説2作品を電子化した。

次に、コーパスを資料として、日本語とロシア語の人為的事態を表す表現について、同一場面での構文の選択という観点から分析した。また、上級日本語学習者に当該表現の使用意識調査を行った。それらの結果をもとに、客観世界に対する事態認識の差異について考察し、日本語はロシア語に比べて事態を主観的に把握する傾向にあることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In this study, I have first created a Japanese - Russian parallel corpus, based on the text of short stories. In total there are 9 corpora: 7 from Japanese text and 2 from Russian text. It has been specifically formatted for a side-by-side comparison.

This study considers the question of how we express intentional events involving an agent that is unspecified or unimportant. To answer this question, data were collected from the above-mentioned parallel corpora. After collection, the data were analyzed in detail to determine why these differences occur. In additional, I investigated the results of an awareness survey of those representations, in advanced Japanese learners. The difference between Japanese and Russian lies in the different ways of rendering for each language, that is, whether or not a speaker seizes and depicts events subjectively from the view point of the patient. The results of the study show that Japanese is a language with a high degree of subjectivity.

研究分野：言語学 日本語教育

キーワード：アスペクト・ヴォイス 言語の「自然さ」, 「-語らしさ」 日露対照研究 認知類型論 パラレルコーパス

1. 研究開始当初の背景

日本語学習者のコミュニケーション能力を決定づける要因とはいったい何であろうか。日本語学習者の日本語力は様々であり、国外でしか勉強したことがないにもかかわらず「自然さ」を身につけているものとそうでないものがある。そこには、学習者、教師および環境といった言語外的要因が関わっていることが予想されるが、基準としての「自然な日本語」を感覚的にしか測定できないという現状では分析の仕様がなない。なぜある学習者の日本語だけを「自然」と感じるのか、「日本語らしい日本語」とはどういうものを言うのか、ということについて明らかにし、正確なコミュニケーション能力を測定する方法を緊急に開発しなければならない。

誰かが財布を盗んだことを「財布を盗まれた」と受身構文で言うのが日本語では自然であるが、英語では Someone stole my wallet. (誰かが私の財布を盗んだ)、ロシア語では Я меня украли кошелек. (私には(誰かが)財布を盗んだ(主語がなく、動詞は3人称複数形))と表現するのが自然である。本研究では、言語の可変性は社会文化のあり方との間で相対化されており、伝達慣習によって選択されている」という仮説を設定し、Sapir の Language (1921) 以来絶えず探求されてきた言語と認知や思考との関係性の解明に着目し、認知類型論的アプローチから、どの把握の仕方における意味づけをもっとも自然と感じるか、言語間の差異を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究は、言語の「自然さ」、「～語らしさ」ということはどういうことかについて理論化し、説明を試みるものである。具体的には、現代日本語の結果構文、受動構文および現代ロシア語の受動構文、不定人称構文などを主たる対象とし、母語話者から収集した用例と、同じ内容が両言語で翻訳されたパラレルコーパスによる用例収集をもとに、種々の構文のあり方について意味と機能と構造の面から有機的・相関的に特徴づけて検証し、その成果を認知類型論の発展に資することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、上述した目的を達成するため、具体的には類型論的に異なる文法的特徴を有する日本語とロシア語におけるアスペクト・ヴォイスの現象について、両範疇にまたがる構文の形式と意味の関係はどうなっているか、また言語間でどのような構文の分布パターンが見られるかを検証した。

研究方法：文献資料からの用例収集、パラレルコーパスからの用例収集、母語話者への聞き取りによる用例収集、収集したデータの分析と意味地図の記述、母語話者への使用意識調査、認知様式や伝達慣習との関連性の分析・検証

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

日露語パラレルコーパスの電子化
ロシアや日本の近代から現代にかけての文学作品のうち、日本語からロシア語へ翻訳されたもの7作品、ロシア語から日本語へ翻訳されたもの2作品の計9作品の短編小説を完全に電子化した。

表1. 日露語パラレルコーパス一覧

1. 江国香織『デューク』とそのロシア語訳 (Diakonova, E. (訳), 2003)
2. 江国香織『桃子』とそのロシア語訳 (Diakonova, E. (訳), 2003)
3. 保坂和志『生きる喜び』とそのロシア語訳 (Meshcheriakov, A. (訳), 2003)
4. 川上弘美『竜宮』とそのロシア語訳 (Mazurik, V. (訳), 2003)
5. 村上春樹『レキシントンの幽霊』とそのロシア語訳 (Zamilova, A. (訳), 2011)
6. 山田詠美『姫君』とそのロシア語訳 (Tarasova, E. (訳), 2003)
7. 玄侑宗久『中陰の花』とそのロシア語訳 (Toropygina, M. (訳), 2003)
8. Пушкин А.С. «Выстрел» とその日本語訳 (神西清 (訳), 2005)
9. Чехов А.П. «Дом с мезонином (рассказ художника)» とその日本語訳 (松下裕 (訳), 2009)

以上のパラレルコーパスは意味内容がほぼ等しいと考えられる文に対応関係を「タグ付け」してあるが、必要に応じて検索・利用できる形でデータベース化することを検討中である。短編小説については Солженицын, А.И. «Один день Ивана Денисовича» も既に電子化が終了しており、日本語訳の電子化の作業もほぼ終了しつつある。

動作主不定の人為的事態またはその結果の表現と認知様式との関連性の分析・検証

ここでは、アスペクトとヴォイスという2つの範疇を融合的に眺め、機能意味論的な観点からロシア語と日本語を解析し、普遍性と可変性の検証を進めた結果を報告する。調査対象としたのは動作主不定の人為的事態を表す現象である(表2)。

表2. 調査対象とした現象

日本語	主体結果構文(シテイル) 受動構文(サレル) 客体結果構文(シテアル)
ロシア語	受動構文 (быть + V-н-/м-) 不定人称構文 (主語がなく、動詞は3人称複数形)

-1. 問題の所在

-1.1. 動作主が不特定の人為的行為を表す表現

動作主が意図的に行った行為を表す場合、日本語では自然作用が感じ取れば、ナル

的言語」(池上 1981)である日本語は自動詞が用いられる。一方、人為作用が明らかに感じられる場合には自動詞の他に「動作主の非焦点化 (Givón (1981))」機能の受動文も可能である。このように日本語では、動作主が不特定の人為的行為を他動詞で表現するには受動文の不完結 (Imperfective) が用いられる。また、「皿が割ってありました」とシテアルを使うことも可能である。

-1.2 ロシア語

一方、ロシア語は動作主が意図的に行った行為を事態の実現や結果に着目し、動作主を背景化して示す場合、受動文が「不定人称構文」を用いる。

-1.2.1. 受動文

ロシア語の完了体動詞は受動の過去分詞を形成 (被動形動詞過去短語尾 (-н/-т-により形成)) し、「コピュラ + 分詞」形によって表現される (例(1))。不完結体動詞の場合は再帰動詞 (接尾辞-ся (-sja) をつける) によって受動が表現される (例(2))。

(1) Дом был построен плотником.
Dom byl postroen plotnikom.
家 繫辞 建て(被形過)¹ 大工(造)
「家は大工によって建て上げられた」

(2) Дом строилса плотником.
Dom stroilsja plotnikom.
家 建て(再帰) 大工(造)
「家は大工によって建てられていた」
(城田 2003: 190)

-1.2.2. 不定人称文

ロシア語では、人為的事態の行為のみに着目し、動作主を明示しない「不定人称文 (неопределенно-личное предложение)」と呼ばれる構文がある。通常対象を意味する名詞句は動詞に先行し、動詞は3人称複数現在か未来、複数過去の形をとる。(以下、ロシア語の例の「」内は発表者による直訳)

(3) Виновного простили.
Vinovnogo prostili.
罪人(対) 許す(複過)
「罪人を許した」
(城田 2003: 24)

-1.2.3. 不完結体の自動詞

日本語の自動詞同様「何が起こったか」に着目し、ロシア語でも動作主が不特定の人為的行為の結果の状態を不完結体の自動詞で表すことができる。

(4) На столе лежит книга.
Na stole ležit kniga.
机の上に 横たわっている 本(主)

¹ 本報告書で用いる略語は次のとおりである。被形過=被動形動詞過去短語尾, 主=主格(Nominative case), 対=対格(Accusative case), 与=与格(Dative case), 造=造格(Instrumental case), 3=3人称, 複=複数, 過=過去, 現=現在, 未=未来, 男=男性, 女=女性, 中=中性

「机の上に本がある」

(Зарубин и Рожецкий 1988)

-2. 研究課題

動作主が不定の人為的事態やその結果状態を表す場合、

- I. 日本語やロシア語の自動詞や受動文, ロシア語の不定人称文, 日本語のシテアル構文はどのくらい使用されるか
- II. なぜ日本語とロシア語で表現形式が違うか

-3. 研究データ

日本の短編小説 6 編とそのロシア語訳 (表 1 の 1-6), ロシアの短編小説 2 編とその日本語訳 (表 1 の 8, 9) の計 16 編から対象とする表現を抽出し, 分析資料とした。

-4. 動作主が不特定の人為的事態の過程を表す構文の分布状況

動作主が不定の人為的事態を表す構文使用の分布状況を示したものが表 3 である。

日本語では受動文以外は使用されないが, ロシア語では受動文, 不定人称文がそれぞれ 1/4 以上を占めて多く使用されており, 能動文も使用するなど, 様々な表現が可能であることが分かった。

表 3. 日露語の動作主が不定の人為的事態を表す場面における構文の分布状況 (下段は%)

	受動文	不定人称文	能動文	その他	計
日本語	90	0	0	2	92
	98%	0%	0%	2%	100%
ロシア語	25	24	13	30	92
	27%	26%	14%	33%	100%

-4.1. 受動文にかんする対照

受動文は一般に動作の過程を表す「動作受動」と動作の結果の状態を表す「状態受動」とに区別される。

- (5) a. ..., イトが行けばどの家の口も開かれた。
(龍宮)
b. Для Ито же двери любого
Dlja Ito že dveri ljubogo
ために イト 戸(主) あらゆる(生)
дома были всегда открыты.
doma bytli vseгда otkryty,
家(生) 繫辞 いつも 開く(被形過)
(Дворец Морского Царя)
- (6) a. でもここにあるのとだいたい同じくらいの数のレコードがカートンボックスに詰め込まれて, ...
(レキシントンの幽霊)
b. Но еще примерно столько же
No ešče primerno stol'ko že
しかし まだ およそ 同じくらい
упаковано в картонные ящики ...
upakovano v kartonnye jaščki ...
納める(被形過) カートンボックスに

(Призраки Лексингтона)

-4.2 不定人称文にかんする対照

不定人称文は「状態受動」の意味では用いられず、動作の実現(過程)を示す。

(7) a. この寺に小さな女の子があずけられて来ました。(桃子)

b. В храм *отдали* на попечение
 V храм *otdali* na poročenie
 お寺に 預ける(複過) 保護の下に
 маленькую девочку.
 malen'kuju devočku.
 小さい(対) 女の子(対)

(Момоко)

-4.3. 能動文にかんする対照

文脈上動作主が明らかな場合や不特定を表す代名詞(кто-то (kto-to) = だれか)や никто (nikto) = だれも)を明示する場合は能動文となる。

(8) a. でもパーティーには招待されているわけじゃない。(レキシントンの幽霊)

b. Но на вечеринку же меня
 No na večerinku že menja
 でも パーティに 反して 私(対)
 никто не приглашал.
 nikto ne priglašal.
 だれも(主) 否定 招待する(男過)

(Призраки Лексингтона)

-4.4. それぞれの構文の特徴

本研究で述べた「動作主の非焦点化」機能の日本語の受動文と、それに対応するロシア語の受動文、不定人称文、能動文の違いは単純化すると表4にまとめられる。

表4 「動作主の非焦点化」機能の構文間の比較

	日本語		ロシア語	
	受動文	受動文	不定人称文	能動文
構造的 特徴	S=対象 O=なし	S=対象 O=なし	S=なし O=対象	S=動作主 O=対象
動詞の 形態	受身形	分詞形 再帰形	(3人称) 複数	能動形
動作主 の明示	非明示 (ニヨッて可)	非明示 (造格で可)	不可	明示
意味	対象の結果 の状態 対象への働 きかけ	対象の結果 の状態 対象への働 きかけ	対象への働 きかけ	対象への働 きかけ
視点	対象	対象	(動作主 と)対象	動作主と対 象

-5. 動作主が不特定の人為的事態の結果を表す構文の分布状況

人為的事態の結果の状態を表す構文の使用の分布状況を示したものが表5である。

ロシア語では受動文が26%と自動詞の使用23%をわずかに上回っているのにたいし、日本語では自動詞の使用が50%とほぼ半数を占めて多く使用されていた。シテアル構文の使用は17%とあまり多くなかった。ま

た、意識も含めたその他の表現も多く見られ、ロシア語のほうが表現が多様である。

表5. 日露語の人的事態の結果の状態を表す場面における構文の分布状況(下段は%)

自他	他動詞			自動詞	その他	計
	受動文		シテアル	能動文		
アスベ外	完結	不完結				
日本語	0	24	11	35	0	70
	0%	34%	16%	50%	0%	100%
ロシア語	18	0	0	16	36	70
	26%	0%	0%	23%	51%	100%

-5.1. 受動文にかんする対照

表6のとおり、日本語で受動文が使われる場面においてはロシア語でもほぼ半数は受動文によって表されている。

表6. 日本語の受動文に対応するロシア語表現の分布状況(下段は%)

受動文	自動詞文	その他	計
11	2	11	24
46%	8%	46%	100%

(9) a. ..., 庭のほうのガラス窓がすっかり開け放たれていた。(中二階のある家)

b. ..., стеклянная дверь в сад была
 ..., stekljannaja dver' v sad byla
 ガラス窓 庭に 繫辞
открыта настезь.
otkryta nastez'.

開ける(被形過) すっかり開放して

-5.2. シテアル構文にかんする対照

表7のとおり、日本語でシテアル構文が使われる場面では、ロシア語では受動文、自動詞文による表現はあまり多くない。

表7. 日本語のシテアル構文に対応するロシア語表現の分布状況(下段は%)

受動文	自動詞文	その他	計
1	3	7	11
9%	27%	64%	100%

(10) a. 僕の読んでいた本は、ソファの上に伏せてあった。(レキシントンの幽霊)

b. Моя книга *лежит* перевернутой
 Moja kniga *ležit* perevernutoj
 私の本 横たわっている さかさまに
 на диване.
 na divane
 ソファの上に

(Призраки Лексингтона)

-5.3. 自動詞文にかんする対照

表8は日本語で自動詞文による結果の状態をロシア語でどう表現するか示したものである。受動文より自動詞文のほうが多い。

表8. 日本語の自動詞文に対応するロシア語表現の分布状況(下段は%)

受動文	自動詞文	その他	計
6	11	18	34
17%	31%	51%	100%

- (11) a. だし巻き玉子やほうれん草のおひたしなどが並んでいる。(龍宮)
 b. На столе *стояли* рулеты
 Na stole *stojali* rulety
 机の上に 立っている だし巻き
 из омлета и тушеный шпинат.
 iz omleta i tušenyj špinat
 たまご や 法蓮草のおひたし
 (Дворец Морского Царя)

-5.4. それぞれの構文の特徴

本研究で述べた人為的事態の結果を表す受動文、自動詞文とシテアル構文の違いは単純化すると表9にまとめられる。

表9 人為的事態の結果の表現の構文間の比較

	受動文 (完結)	受動文 (不完結)	シテアル	自動詞文
言語	ロシア語	日本語	日本語	日本語 ロシア語
動詞の形態	受身形 (分詞形)	サレテイル	シテアル	シテイル 不完了体
動作主の明示	非明示 (造格で可)	非明示 (ニヨッテで可)	(基本的に) 不可	不可
意味	対象の結果 の状態	対象の結果 の状態	対象の結果 の状態	対象(結果) の状態
視点	(動作主)と 対象	対象	対象	対象

-6. 主観性にかんする問題

以上考察してきたように、動作主が不定の人為的事態を表す場合、日本語に比べロシア語には表現形式がいくつもあることがわかった。この結果から、日本語は受動文の使用が好まれるが、ロシア語は、受動文のほか、不定人称文の使用も自然であることがわかった。ロシア語では能動文の使用も見られた。結果の表現においては、ロシア語は完結の受動文で結果状態を示し、日本語は不完結の表現で結果状態を示し、自動詞文を好む。以下のように図示できる。

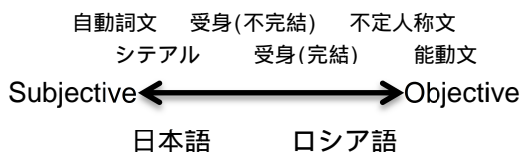


図1 人為的事態の表現の主観性の尺度²

-7. 結

本研究では、話し手にとって動作主が不明か大事ではない人為的事態を表す場合、日本語とロシア語でどのように表現するかを日露語パラレルコーパスのデータを用いて分析した。その結果以下の点が明らかになった。

- (I) 過程を表す場合、日本語は受動文を使用するが、ロシア語は受動文のほか、不定人称文を多用する。能動文を使用する場合もある。

- (II) 結果を表す場合、日本語は自動詞文を使用する傾向が高く、ロシア語は受動文や自動詞文ほか様々な表現がある。
 (III) 日本語とロシア語の相違は、事態の捉え方の違い、すなわち、対象の視点から主観的に捉え、描写するか否かに由来する

-参考文献

池上嘉彦 (1981) 『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論』大修館書店
 城田俊 (2003) 『現代ロシア語文法 中・上級編』東洋書店
 Givón, Talmy. (1981) “Typology and functional domains.” *Studies in Language* 5(2), 163-193
 Uehara, Satoshi. (2006) “Toward a typology of linguistic subjectivity: a cognitive and cross-linguistic approach to grammaticalized deixis.” In: Angeliki A. et al. (eds.) *Subjectification: various paths to subjectivity*, 75-117. Berlin: Mouton de Gruyter.
 Зарубин Степан. Ф., Рожецкий Александр. М. (1988) *Русско-японский словарь: около 50000 слов*. Москва: Русский язык

日本語学習者の「動作主不定の人為的事態の表現」使用について

ここでは、動作主が不明か大事ではない場合の、人による行為の結果の状態の表し方が言語間でどう違うか、という問題を、日本語学習者がそれを母語でどのように理解しているかを分析することで明らかにする。

-1. 研究課題

- 受動文の不完結とシテアル構文について、
 I. 日本語学習者はこれらの表現をどの程度理解し、使用しているか
 II. 同じ結果の状態を描写する際、留学生の母語ではどのような言い方が自然か

-2. 研究データ

課題解決のため、日本に留学している上級レベルの日本語学習者にたいしアンケート調査を行った。調査票には、例えば受身文やシテアルなど結果の状態を示す例文を日本語で提示し、母語に自然訳してもらった。調査対象者ではない母語話者とともに正誤を判断し、理解度、使用度分析のデータとした。

-3. 分析

調査結果は表10に示したとおりである。言語によって回答者数が異なる(最低:1名, 最高:4名)が、その結果は一定の傾向を示すと考えられる(自=自動詞構文が自然, 他=他動詞構文が自然, 受=受動構文が自然, x=その他の表現が自然)。

-4. 結

- (I) 母語によっては日本語の結果表現の細かいニュアンスの差を理解するのが難しい
 (II) 中国語やタイ語は受動構文よりも主語のない能動構文を好んで用いる傾向にある

² Uehara(2006)の主観性のスケールを採用

表 10 「結果を表す表現」にかんするアンケート調査

	日本語	中国語	タイ語	ホルガ ル語	英語	
シテイル (自動詞)	1 かばんが開いていますよ	自	×	受	×	
	2 そのいす、壊れてるよ	自	自	受	受	
	3 電気がついてます	自	自	受	×	
	4 壁に絵がかかっている	他	自	受	×	
シテアル	5 (切っぴは)引き出しにしま ってあるよ	他	×	×	受	
	6 カレンダーに今月の予定が書いて あります	他	他	受	受	
	7 机の上にメモが置いてあっ た	他	他	×	受	
	8 窓が開けてあった	自	他	受	×	
サレテイル	9 皿が割られていました	自	自	受	受	
	10 交番に町の地図が貼られて います	他	他	受	受	
	11 三の丸は土塁と水堀に囲ま れていた	受	他	受	×	
	12 ダンボールに子猫が捨てら れていた	受	受	受	受	
	13 正面の欄に人形が飾られて いた	他	他	受	×	
計	シテイル (自動詞) 4	自	5	4	0	0
	シテアル 4	他	6	6	0	0
	サレテイル 5	受	2	1	11	7
		×	0	2	2	6

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

コーパス研究が盛んな今日でも日露語の
パラレルコーパスはまだ希少であり、短
編9作品とはいえ、日露語パラレルコーパス
を構築できたことは、今後の日露語の対照言
語学的研究をはじめ類型論的研究など言語
研究に供する資料となり得るものである。

本研究課題においては、日露語パラレルコ
ーパスを資料として行った検証の結果、動作
主不定の人為的事態またはその結果という
同一場面においてロシア語は能動文、不定人
称文、完結の受動文で示すのにたいし、日本
語は不完結の表現 (シテアル, サレテイル)
で示し、自動詞文も好んで選択することを明
らかにした。これら構文の意味・機能は前掲
図 1 に示したとおり主観性のスケール上で
連続性をなすが、そこから、日本語はロシア
語に比べ事態をより主観的に把握し、表現す
る、ということを中心とした。

この結果は、「言語の自然さ」、「～語らし
さ」が認知類型の違いで説明できる可能性を
示唆するものであり、認知類型論の発展に資
するものと言える。

(3) 今後の展望

当然ながら日露2言語だけではその特徴は
相対的なものに過ぎず、一般化するには不十分
である。構文選択の傾向から様々な言語が
このスケール上どこに位置するかを探ること
で、主体・主観化現象にかかわる認知様式
のあり方の類型化が可能になり、より精緻に

検証ができると考える。

今後は、研究対象を日露語以外の言語にか
んしても同様に同一場面においてどのよう
な構文が選択されるか、という観点から分析
を行う予定である。とりわけ今回は日本語同
様、語の機能を表す要素が後接される特徴が
強い言語のうち、SOV 語順で膠着語の韓国語、
トルコ語、膠着語から屈折語への移行形態に
ある SVO 語順のエストニア語の3言語を考
察の対象に加え、日本語との文法的特徴の相
似の度合いが事態把握にどう関係している
かという観点から研究を進める予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

SOEJIMA, Kensaku (2014) “On expressions
of de-topicalized intentional events: A
constructive study between Japanese and
Russian”. *Journal of Japanese Linguistics*. Vol.
30. 117-138 (Refereed Paper)

副島 健作 (2013) 「『原因』を表す接置
詞の文法化: 日本語とロシア語を対象に」
Studies in Language Science, Volume 12 -
*Journal of the Japanese Society for Language
Sciences* - . 言語科学会. 95-111 (査読有り)

〔学会発表〕(計 5 件)

副島 健作: 「日本語学習者の『動作主が
不特定の人為的事態の表現』使用について」
第 10 回国際日本語教育・日本研究シンポ
ジウム. 2014 年 11 月 15 日 香港 (中国)

副島 健作: 「人為的事態の結果の表現 -
日本語とロシア語の受動文とアスペクト
-」第 8 回日本語実用言語学国際会議.
2014 年 3 月 23 日 於国立国語研究所 (東
京都立川市)

副島 健作: 「動作主が不特定の人為的事
態の表現 - 日本語の受動構文とロシア語
の不定人称文 -」日本言語学会第 147 回大
会. 2013 年 11 月 23 日 於神戸市外国語大
学 (兵庫県神戸市)

副島 健作: 「地方における日本語の『自
然な言い回し』- 他地域出身者が使用する
ウチナーヤマトウグチの文法について -」
沖縄県日本語教育研究会 2012 年度研究発
表会. 2013 年 3 月 1 日 於琉球大学 (沖縄
県中頭郡西原町)

副島 健作: 「若者の地方共通語使用にか
んする一考察 - ウチナーヤマトウグチの
アスペクトの使用意識調査から -」社会言
語科学会第 30 回大会. 2012 年 9 月 2 日 於
東北大学 (宮城県仙台市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

副島 健作 (SOEJIMA Kensaku)

東北大学・高度教養教育・学生支援機
構・准教授

研究者番号: 60347135